独立行政法人
国民生活センター

報道発表資料

相談解決のためのテストから No. 40

平成 25 年 3 月 7 日

独立行政法人国民生活センター

消費生活センター等の依頼に基づいて実施した商品テスト結果をご紹介します。

調理中に取っ手が溶けたフライパン

１．依頼内容

「着脱式取っ手のフライパンを購入した。調理中のフライパンに取っ手を取り付けたところ、ゴムの溶けるような臭いがして、取っ手がフライパンにへばりついた。取っ手が溶解した原因を調べてほしい。」という依頼を受けました。

２．調査

当該品は、大きさの異なる 3 種類のフライパン及びガラスのふた等がセットで販売されており、取っ手が着脱式のものでした（写真 1）。

写真 1．フライパンの取っ手（当該品の同型品）

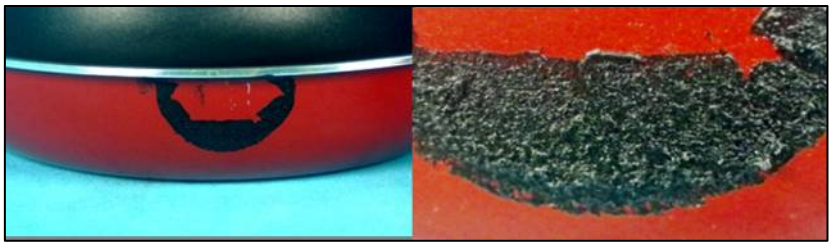
取扱説明書及び外箱に、取っ手の材料としてベークライト（フェノール樹脂）との表示がありました。フェノール樹脂は耐熱性があり、熱硬化性の樹脂のため耐熱温度を超えた場合でも溶解することはなく炭化しますが、当該品の取っ手はフライパンをつかむ箇所に熱によると思われる溶解した痕が見られました（写真 2、3）。取っ手の樹脂の組成について分析した結果、ポリアミド樹脂（ナイロン 6）が使用されていることが判明しました。また、取っ手を分解すると、内側に材料の型番を示す刻印があり、ポリアミド PA6（ナイロン 6）にグラスファイバーを 30%含有したものであると考えられました。

当該品の同型品を用いて、ガスこんろにかけて中火で加熱したところ、当該品と同様に取っ手が溶解することが確認できました。

取っ手が溶解した原因は、取っ手の材料が取扱説明書に表示されているフェノール樹脂とは異なる熱可塑性のポリアミド樹脂であったためと考えられます。事故防止のため表示どおりのフェノール樹脂を使用するなどの対策が望まれます。

写真 2. 取っ手の溶解箇所

写真 3. フライパンについた溶解物



３．解決内容等

依頼センターから販売者に対しテスト結果の説明を行ったところ、販売者から表示どおりの材料に変更したという回答がありました。

本件問い合わせ先
商品テスト部：042-758-3165